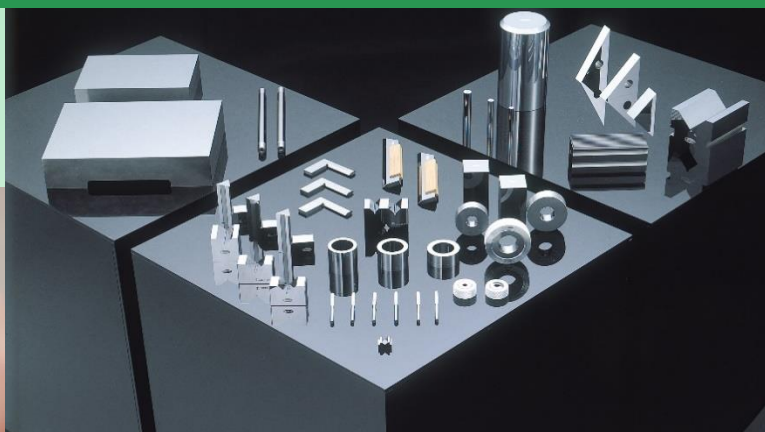


FUJILLOY

東証プライム (6167)

世界の基幹産業を支えて75年
富士ダイス株式会社

2025年3月期 第2四半期決算 補足説明資料



1. 会社概要	P.02
2. 2025年3月期第2四半期 業績概要	P.12
3. 2025年3月期 業績見通し	P.19
4. 2025年3月期 重点施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み	P.24
5. APPENDIX	P.34

0 1

会社概要

会社概要（2024年11月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,106名（2024年3月期末時点、連結）



当社の特長

超硬耐摩耗工具市場でトップシェア

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

長期的成長を担う高い素材開発力×加工技術力

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力
新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社
(グループ連結)

財務基盤：黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持

ネットキャッシュ 7,412百万円
フリーキャッシュフロー 592百万円

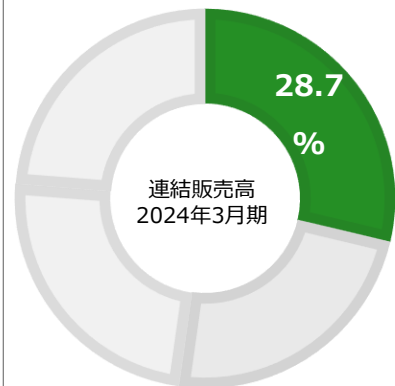
自己資本比率
80.2%
(2024年9月末時点)

(2024年9月末)

事業内容 製品区分

■ 超合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

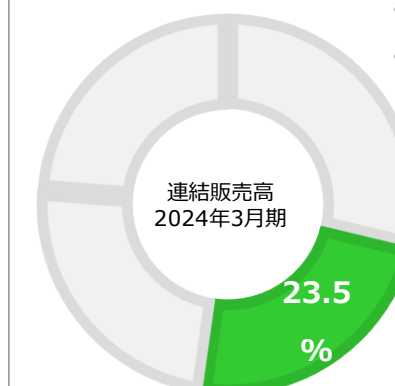
超硬製工具類



- ・ ダイス、プラグ
- ・ 溝付きプラグ
- ・ 熱間圧延ロール
- ・ 超高压発生用工具 等



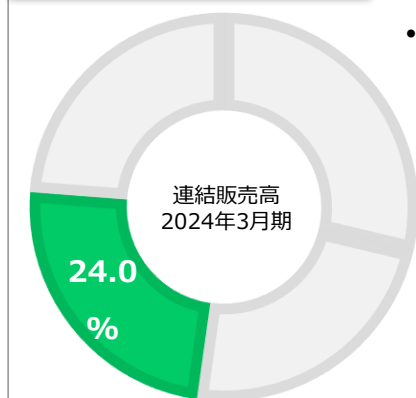
超硬製金型類



- ・ 自動車部品製造用
- ・ 製缶用
- ・ 電池関連用 等



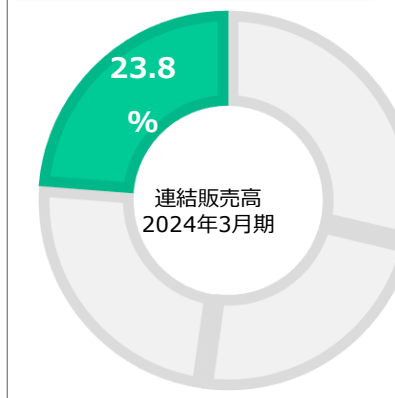
その他の超硬製品



- ・ 超合金素材
- ・ 半導体製造装置用部品 等



超硬以外



- ・ 鋼製品
- ・ KF2製品
- ・ セラミックス製品
- ・ ダイヤモンド研削砥石
- ・ FHR製品
- 銅タン
- NFメタル
- 引抜鋼管 等



モノづくりを土台から支える「生命工具」

自動車



エンジンをはじめ、さまざまな部品の製造ラインに使用

エアコンなどの家電 航空機などの輸送機器



エアコンなどの家電、航空機などの輸送用機械、鉄道架線・電線などインフラ設備の他、幅広く使用

飲料缶・食缶



超合金の高精度な製缶金型で高いシェア

鉄道架線・電線など インフラ設備



カメラレンズ



スマートフォンや一眼レフカメラレンズ製造用金型に使用

人工ダイヤモンド

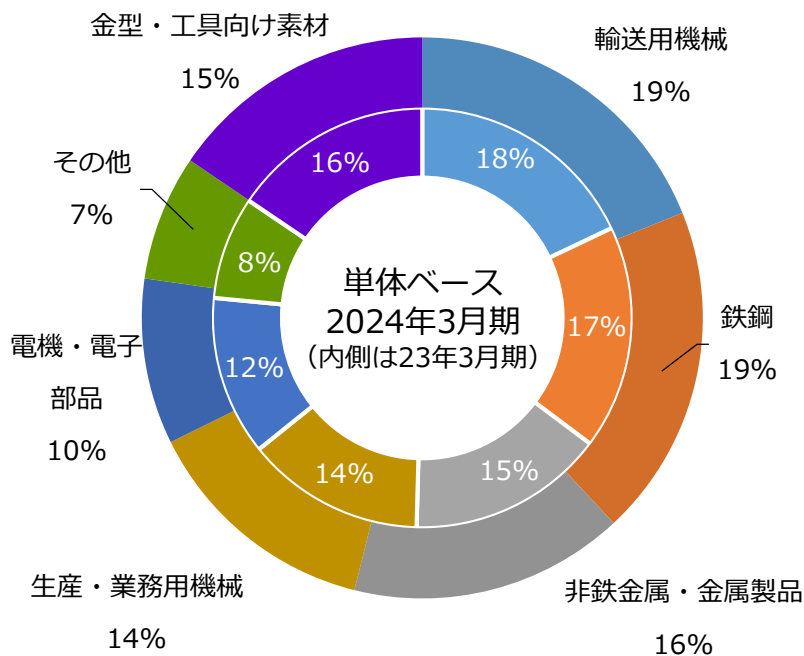


人工ダイヤモンドの製造や新たな素材の開発などに使用

受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎の**カスタムメイドの受注生産・直接販売**を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は**約3千社**、業種も幅広い
特定の**業界動向に影響されない安定性が強み**

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点 (2024年10月末時点)】

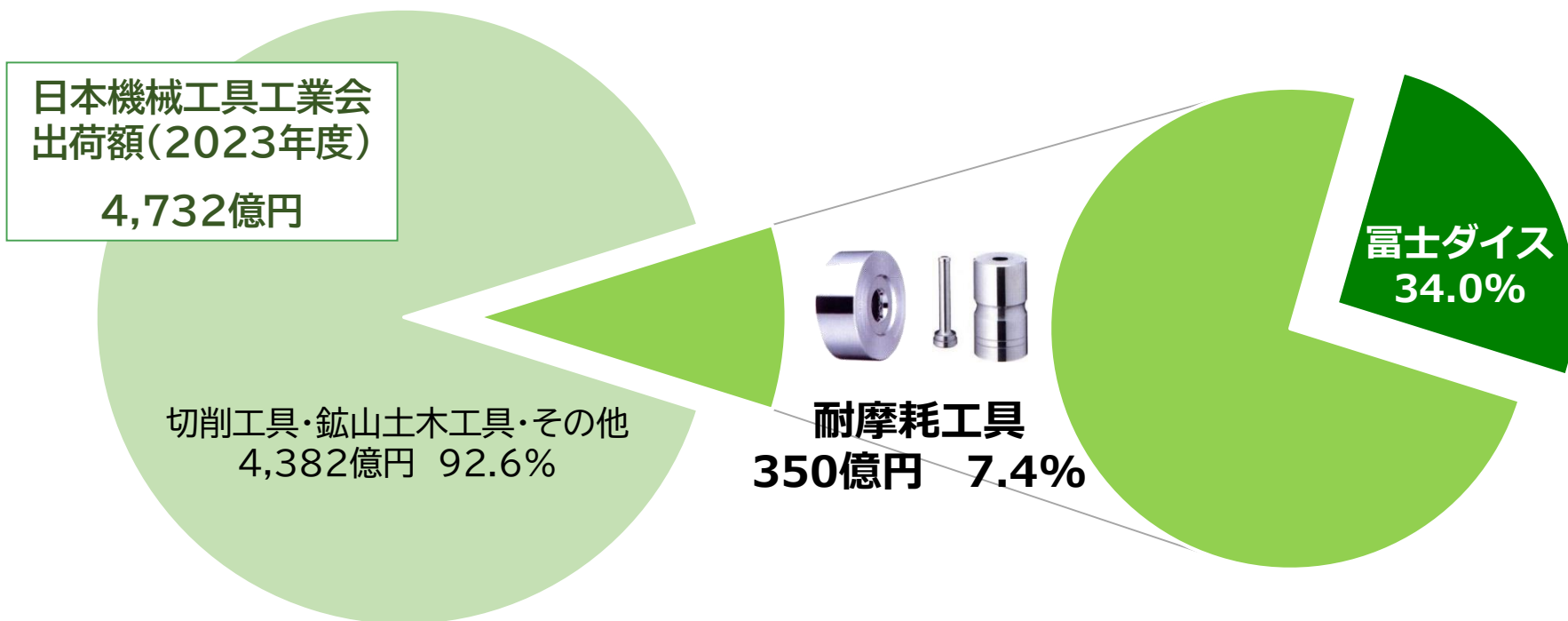
【国内】

- 生産・営業拠点 5ヶ所
- 生産拠点 2ヶ所
- 営業拠点 5ヶ所

【海外】

- 生産・営業拠点 2ヶ国
タイ・インドネシア
- 営業拠点 3ヶ国
中国・マレーシア・インド (休眠中)

超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）



耐摩耗工具における当社シェア 34.0%
当社の超硬工具の売上 119億円

★2023年度単体売上は、約148億円
超硬耐摩耗工具が主力製品（超硬製品は全体の約80%）で、他に銅タン合金・セラミックス製品
ダイヤモンド工具等を製造・販売

「2024年度（第8回）精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞

- ガラス成形用高熱膨張新硬質材料（フジロイTR05/TR30）の開発および超精密加工技術の確立が評価され公益社団法人精密工学会主催の「2024年度（第8回）精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞。
- 「2023年度日本機械工具工業会賞」における「技術功績大賞」、「2023年 第66回十大新製品賞」における「モノづくり賞」に続き、**3度目の受賞**となった。



【岡山大学で行われた贈賞式と「ものづくり賞受賞講演」】

JIMTOF2024（第32回日本国際工作機械見本市）に出展

- 世界最大級の工作機械見本市「JIMTOF2024（11月5日～10日東京ビッグサイト）」に出展。
- 「持続可能な世界に向けてお客さまの課題をFUJILLOYで解決する」をコンセプトに「金型クリニック」をイメージしたブースで、当社が開発したグリーン水素向け電極【PME】やモーターコア金型向け新素材【フジロイ VG51】などの新製品を中心に当社製品を展示し、当社製品による金型・工具のお悩み解決事例を紹介。
- 超硬合金に関するワークショップの開催や、金型・工具のお悩みを相談できるコーナーを開設するなど、新たな試みを実施。



【JIMTOFの当社ブース】

グリーン水素向け電極を開発

- グリーン水素の製造装置向けニッケル製電極を開発
- 水素を製造する際に電圧を従来比20%削減
- 超高圧の合成技術を活かして触媒を開発し、粉末冶金技術でニッケル中に触媒を混ぜ込み電極化



富士ダイスがニッケル電極

グリーン水素 電力抑え製造

富士ダイスは、水素を製造する際に電圧を従来比20%削減するニッケル製の電極を開発した。電力の使用を抑えられ、また貴金属を使用していないために環境負荷が低いという。主力事業の超硬合金製造の粉末冶金技術などを応用した。再生可能エネルギー電力を使った水の電気分解によるグリーン水素の製造装置向けに、2027年までの商品化を目指す。

富士ダイスが開発したグリーン水素向け電極

装置向け27年商品化

超硬合金の製造に求められる粉末冶金技術と超高圧の合成技術と触媒の開発を生かし、掛け合わせることで電極にした。触媒と電極化の関連で2件の特許を取得した。

国内外でカーボンニュートラル（CN）、温室効果ガス（GHG）排出量実質ゼロ）に向けた投資が加速している。化石燃料から脱炭素のエネルギーへの転換が見込まれる中、グリーン水素はCNの有効技術になると目される。

5日に東京ビッグサイトで開催する工作機械の展示会「日本国際工作機械見本市（JIMTOF2024）」で披露する。

富士ダイスが開発した電極「PMEII写真」は従来のニッケル電極に比べて、低い電圧で同じ量の水素を生産できる。ニッケル中に触媒を混ぜ込んだ構造を採用し、表面積を大きくして性能を高めた。

【2024年11月5日付「日刊工業新聞」】

02

2025年3月期第2四半期 業績概要

2025年3月期第2四半期 連結業績総括

連結売上高 8,277百万円 (前年同期比0.8%)

連結営業利益 291百万円 (前年同期比-34.0%)

- 売上高は前年同期比で微増
- 原材料の高騰、IT投資や人財投資の拡充により減益

売上高	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外向け熱間圧延ロールの販売の需要増 ■ 製缶金型や次世代自動車部品向け金型の需要増 ■ 半導体製造装置向けの需要が堅調 ■ 海外向けの超硬素材販売が回復傾向
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外向け溝付きロールの顧客での在庫調整に伴う需要減 ■ 混錬工具の需要減
利益	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原材料の高騰 ■ IT投資や人財投資の拡充に伴う費用増

2025年3月期第2四半期 連結業績サマリー

- 売上高は前年同期比で微増だが、予想には届かず
- 各段階利益は前年同期比、予想比で減少

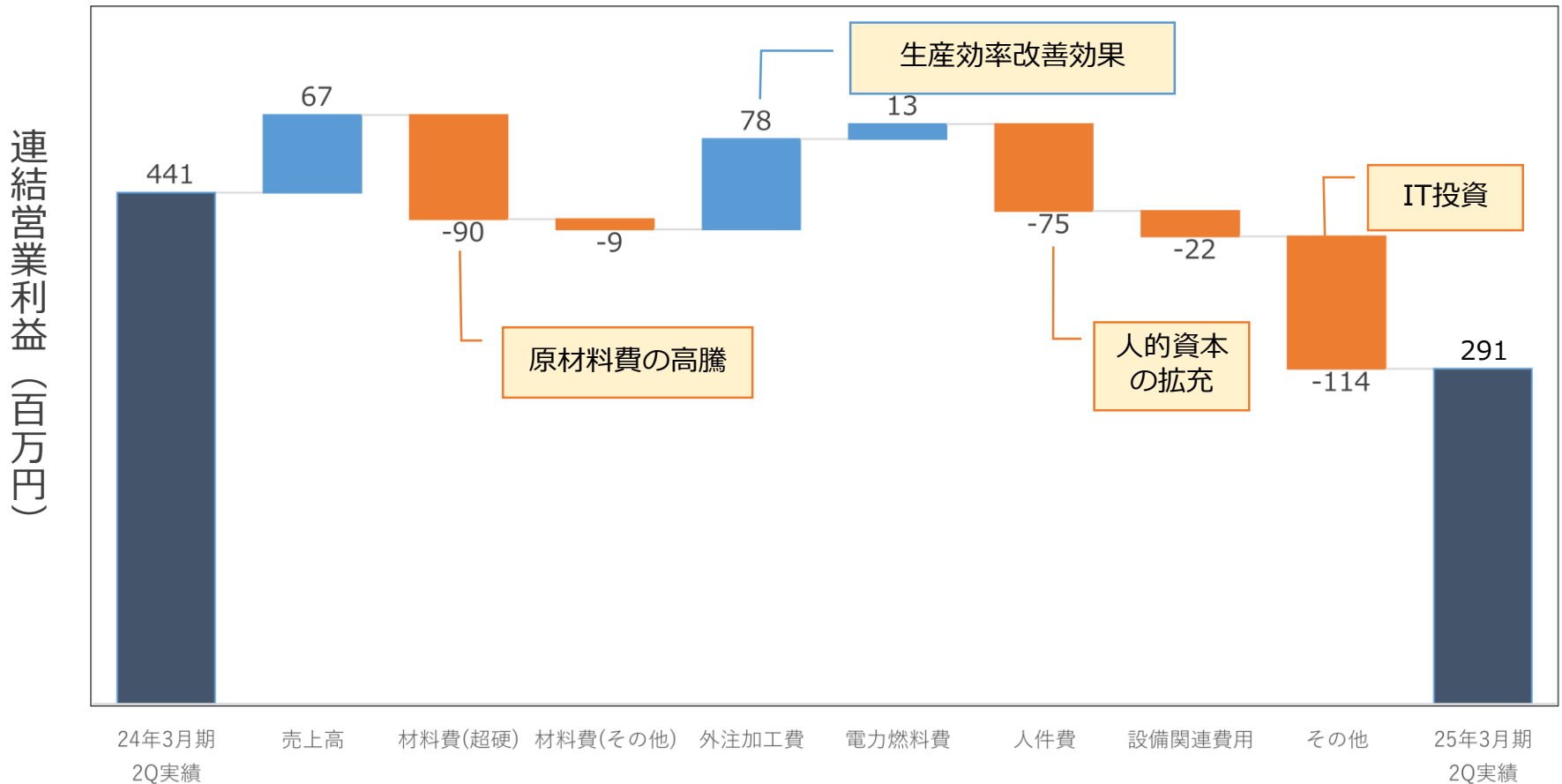
(単位：百万円)	2024年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 第2四半期実績	前期増減率	2025年3月期 第2四半期予想	第2四半期 予想比	2025年3月期 業績予想	業績予想 進捗率
売上高	8,210	8,277	0.8%	8,800	-5.9%	18,000	46.0%
営業利益	441	291	-34.0%	470	-38.0%	1,020	28.6%
(営業利益率)	(5.4%)	(3.5%)	(-34.6%)	(5.3%)	(-34.1)	(5.7%)	
経常利益	501	394	-21.3%	530	-25.5%	1,150	34.3%
(経常利益率)	(6.1%)	(4.8%)	(-22.0%)	(6.0%)	(-20.8)	(6.4%)	
親会社株主に帰属する 中間純利益	380	250	-34.2%	380	-34.1%	830	30.2%
中間純利益率	(4.6%)	(3.0%)	(-34.7%)				
1株当たり 中間純利益/当期純利益	19.15	12.59	-34.3%	19.13	-34.2%	41.78	-
自己資本比率	79.0 (2024年3月期末)	80.2	-				

(百万円未満 切り捨て)

2025年3月期第2四半期 連結営業利益 増減要因（前年同期比）

営業利益

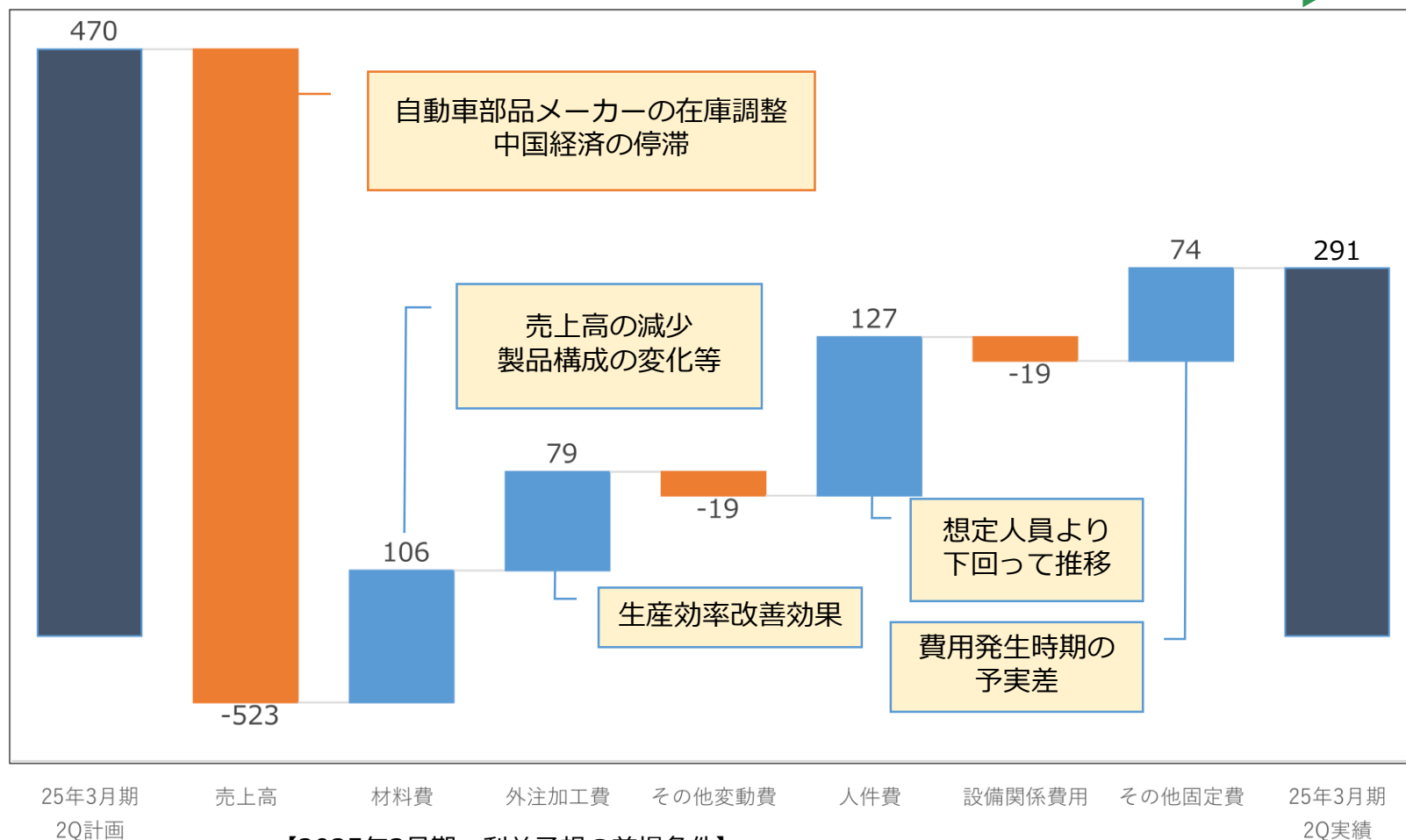
生産性向上・業務効率化の施策の効果等はあったものの、
原材料費の高騰、IT投資や人財投資の拡充に伴う費用増により減益



2025年3月期第2四半期 連結営業利益 増減要因（予想比）

営業利益：予想比▲179百万円

連結営業利益（百万円）



【2025年3月期 利益予想の前提条件】

- ① APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：310ドル/10kg
- ② 為替：150円/米ドル

(単位：百万円/百万円未満 切り捨て)

2025年3月期第2四半期 財務の状況 連結貸借対照表 増減分析

- 受取手形及び売掛金が353百万円、電子記録債権が193百万円減少したことにより流動資産は428百万円減少
- 建物及び構築物が140百万円、機械装置及び運搬具（純額）が129百万円減少したことにより固定資産は212百万円減少

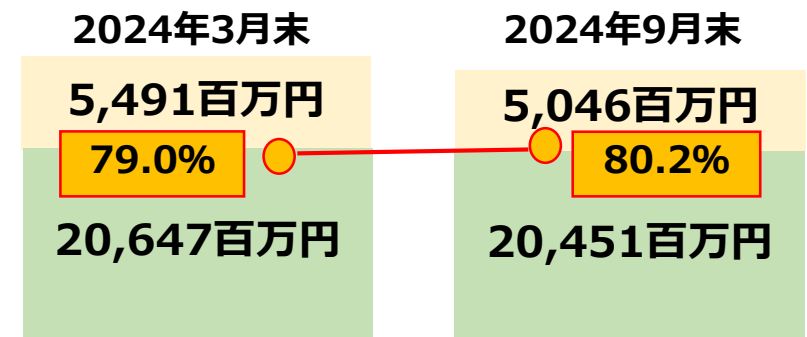
財務状況

2024年9月末 ※ () は2024年3月末との差

資産 25,498百万円 (-640百万円)	負債 5,046百万円 (-444百万円)
	純資産 20,451百万円 (-195百万円)

単位：百万円	2024年3月末	2024年9月末
流動資産	15,024	14,596
固定資産	11,114	10,902
資産合計	26,138	25,498
流動負債	3,871	3,444
固定負債	1,619	16,02
負債合計	5,491	5,046
純資産合計	26,138	25,498

負債・純資産・自己資本比率



	負債	純資産	自己資本比率
現金及び預金		6,440百万円	
原材料及び貯蔵品		1,305百万円	
建物及び構築物（純額）		4,871百万円	
機械装置及び運搬具（純額）		2,081百万円	
短期借入金	28百万円		
長期借入金	-百万円		
退職給付に係る負債	1,551百万円		
利益剰余金		19,510百万円	
その他包括利益累計額		835百万円	

(百万円未満 切り捨て、自己資本比率は小数点第2位を四捨五入)

2025年3月期第2四半期 キャッシュ・フロー計算書

営業CF：税金等調整前中間純利益（394百万円）・減価償却費（480百万円）
投資CF：有形固定資産の取得（401百万円）
財務CF：配当金の支払い（634百万円）

(単位：百万円)	2024年3月期 第2四半期実績	2025年3月期 第2四半期実績	増減
営業活動によるCF	1,216	1,057	-158
投資活動によるCF	-724	-464	259
フリーCF	491	592	101
財務活動によるCF	-641	-651	-10

(百万円未満 切り捨て)

03

2025年3月期 業績見通し

2025年3月期 業績予想 下方修正

生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果があったものの、自動車部品メーカーの在庫調整や中国経済の停滞に伴う売上高の減少の影響を受け、各段階利益とも前回公表の業績予想数値を下回る見込み

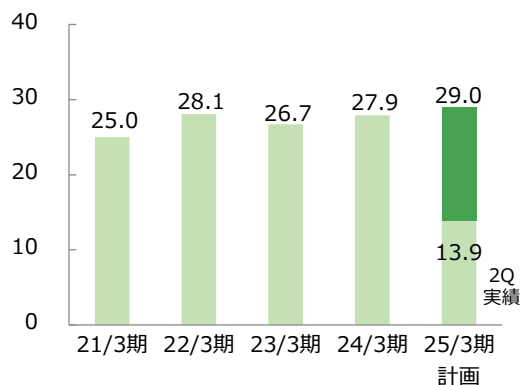
営業利益
6.8億円
(前期比16.3%減)

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	18,000	1,020	1,150	830	41.78円
今回修正予想(B)	17,000	680	850	590	29.68円
増減額(B-A)	-1,000	-340	-300	-240	
増減率	-5.6%	-33.3%	-26.1%	-28.9%	
前期実績 (2024年3月期)	16,678	809	882	709	35.72円
前期比増減率	1.9%	-15.9%	-3.6%	-16.8%	

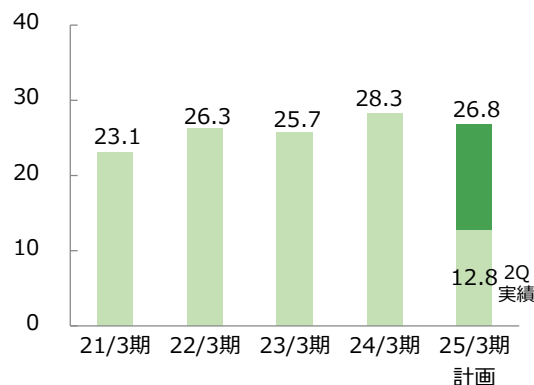
主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2025年3月期）

売上高（億円）

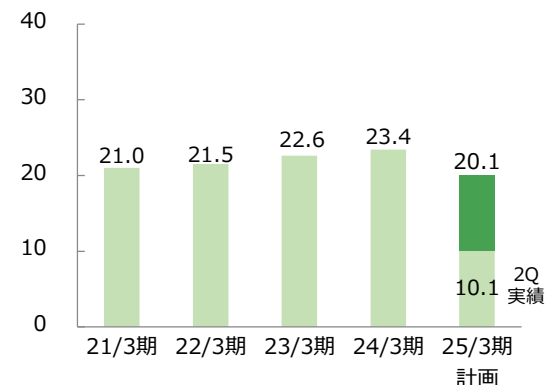
輸送用機械



鉄鋼



非鉄金属・金属製品



製品イメージ



鍛造金型



圧延ロール



製缶工具

事業概況

- 25/3期 2Qは、自動車部品メーカーの在庫調整の影響を受け全体的に低調。
- 25/3期 3Q以降は、自動車生産の回復に伴うモーターコア用金型や次世代自動車の対応製品の需要増を見込む。

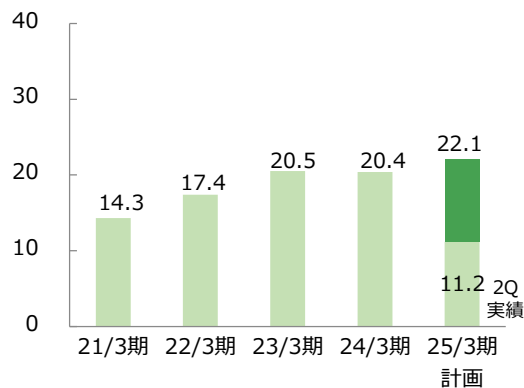
- 25/3期 2Qは、海外向け熱間圧延ロールが堅調に推移したが、自動車生産減の影響を補えず。
- 25/3期 3Q以降は、自動車生産の回復や、海外鉄鋼向け販売により回復を見込む。

- 25/3期 2Qは海外向け溝付ロールが顧客での在庫調整により大幅減。
- 25/3期 3Q以降も引き続き溝付ロールは低調に推移と厳しいが、耐アルミ関係製品の需要増を見込む。

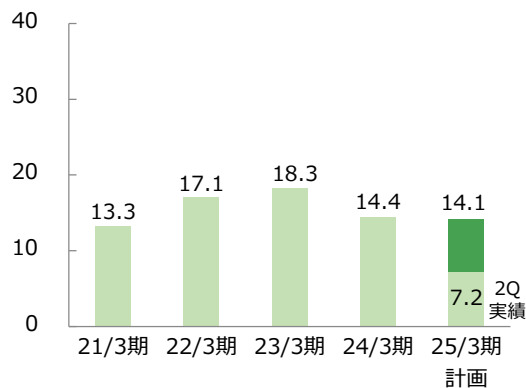
主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）業績見通し（2025年3月期）

売上高（億円）

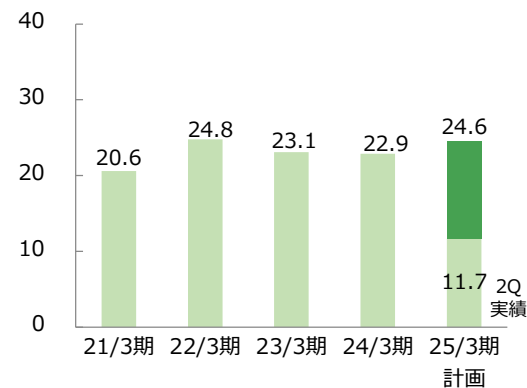
生産・業務用機械



電機・電子部品



金型・工具向け素材



製品イメージ



光学素子成型用金型



電池向け金型



金型・工具向け素材

事業概況

- 25/3期 2Qは、半導体製造装置向けや光学素子向けの販売が好調に推移。
- 25/3期 3Q以降も、半導体製造装置向けは堅調、光学素子向けは撮像向け新製品の引き合い継続で堅調に推移する見込み。

- 25/3期 2Qは、前期需要減の車載用電池向け製品が回復したものの、半導体向け製品が低調に推移。
- 25/3期 3Q以降は、車載用電池向け製品の需要拡大を見込む。

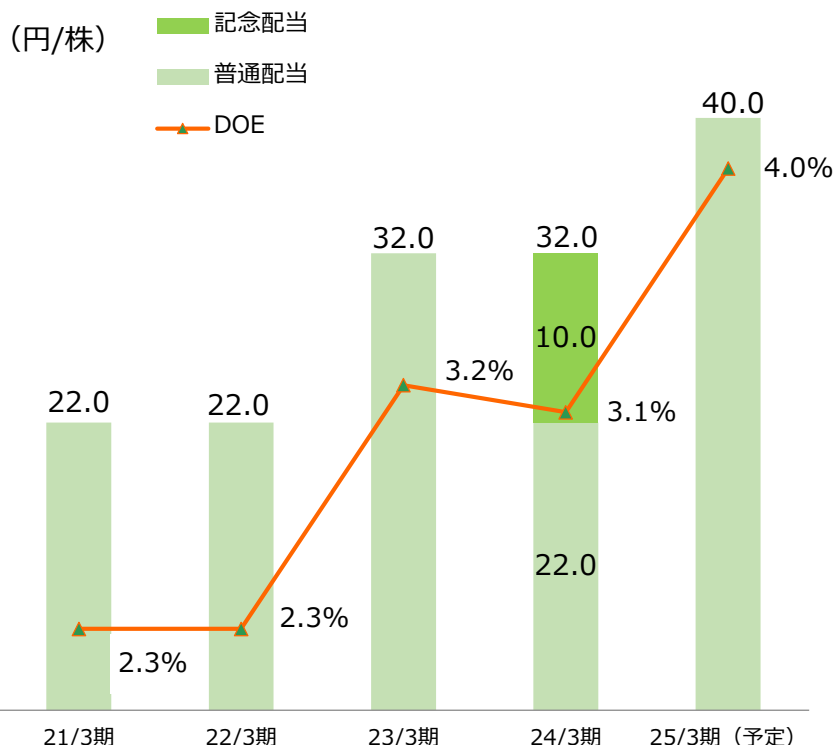
- 25/3期 2Qは、EV関連向けは低調に推移したが、海外向けの超硬素材販売が回復傾向。
- 25/3期 3Q以降は、半導体関連の中国市場深耕などにより、海外向けの超硬素材販売拡大を見込む。

2025年3月期 株主還元・配当

- ・ 2025年3月期は1株当たり40円
【2024年3月期の1株当たり32円に対して、8円増配】

年間配当金
40円

配当方針の変更に伴い、2024年3月期の1株当たり32円に対して8円増配（普通配当で18円増配）の40円を計画



株価の動き

【2024年3月31日時点】

株価	687円
配当利回り	4.66%
時価総額	137億円



2024年5月23日に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み」を発表

【2024年11月28日時点】

株価	775円
配当利回り	5.16%
時価総額	155億円

株価
13%
アップ

04

2025年3月期 重点施策の進捗と
第3四半期以降の取り組み

基本コンセプト：変化に対応できる企業体質への転換

① 経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

② 生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③ 海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④ 脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤ 新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ① 経営基盤の強化

データ化の推進

■ 基幹システムを刷新 (10月1日稼働開始)

- ・別システムだった見積り管理・材料管理・輸出入管理を統合
- ・紙での管理⇒データ管理でペーパーレス化
検索性の向上により業務を効率化

ガバナンスの強化

■ 品質保証本部を新設 (2025年1月1日付)

- ・ガバナンスおよび品質管理の強化を目的としたグループ横断部署を新設
- ・安全で安定した生産体制を堅持し
高品質な製品づくりで企業価値を向上

人的資本投資の強化

■ 新たな福利厚生を導入とEラーニングの拡充 (6月～)

- ・100年企業を目指し社員エンゲージメントの向上を目的に、新たな福利厚生を導入
- ・Eラーニングのプログラムを拡充

環境・社会課題解決への貢献

■ 初のサステナビリティレポートを発行 (12月2日予定)

コーポレートブランディング

■ ブランディングプロジェクトを始動

- ・コーポレートサイトを全面リニューアル (8月末)

取り組み

IT活用を含めた営業活動の強化など、さらなるデータ化を推進

郡山製造所、熊本製造所の自動化を促進

郡山製造所に新たな自動化ロボットを導入・本格稼働

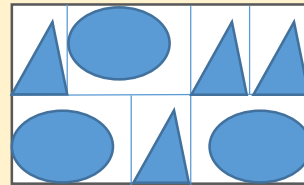
- 郡山製造所の研削加工作業に自動化ロボットを導入・本格稼働
- ロボット導入による無人加工により産出量10%向上
- 外段取りも含めロボットによる多台持ちを検討中



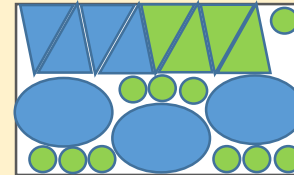
熊本製造所に自動加工ラインを導入・本格稼働

- 熊本製造所の冶金工程にCAD・CAMを駆使したNC加工機による自動加工ラインを導入・本格稼働
平面加工における手作業⇒自動加工への移管率60%
- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティング※を来年度の導入を目指してテスト中
⇒材料を効率よく使い歩留まり率を向上することで、材料費のコストダウンを進める

※板材や棒材などから部品を効率よく取るための割り付けを行うこと



自動ネスティング



取り組み

- 10月末に郡山製造所の冶金工程の自動化ロボットの対応製品範囲を広げる改修を実施
- 自動化可能な工程の検討・導入の計画、来年度、各工場の自動化を本格導入、省力・省人化を推進

2027年3月期 製造部門 原価率低減：3.0%ポイント
素材部門 生産性15%向上（2024年3月期比）

重要施策の進捗と 第3四半期以降の取り組み ③ 海外事業の飛躍

中国 富士模具：販売拠点

進捗 商材の拡充により新規顧客を獲得

- 今年3月に東莞に新規開設した営業拠点を足掛かりに、商材を拡充したことで新規顧客の開拓に成功、販売を拡大
- 9月11日～13日に広東省深圳市で開催された「第25回中国国際オプトエレクトロニクス博覧会（CIOE 2024）」に出展、車載用カメラレンズ向けにガラス成型用金型材料【フジロイTR05】をPR

取り組み さらに知名度向上で
EV関連メーカーへの新規拡販強化

アセアン

Fujilloy Thailand：生産/販売拠点

Fujilloy Indonesia：生産/販売拠点

Fujilloy Malaysia
：販売拠点

進捗 生産性が向上、製造ラインナップを拡充

- タイ：日本からの技術指導により、日本と同等な高精度品を製造
アセアンやそのほかの国々に供給可能、アセアンの生産拠点化
⇒輸送コスト削減、短納期化で営業力を向上
- インドネシア：生産性が向上、対応製品の幅が広がり、現地企業との取引が拡大

取り組み メインの自動車関連や半導体関連の深耕
他業種もターゲットに新規顧客開拓を推進

北米

進捗 展示会に初出展、市場調査を推進

- 9月9日～14日に北米シカゴで開催された展示会「IMTS2024 - International Manufacturing Technology Show」に出展、現地にて市場調査

取り組み 北米での知名度向上を図り、潜在需要
獲得のため新規拡販活動を強化

インド

進捗 休眠再開に向け、市場調査を強化

- 輸出ベースでの出荷額が増加傾向

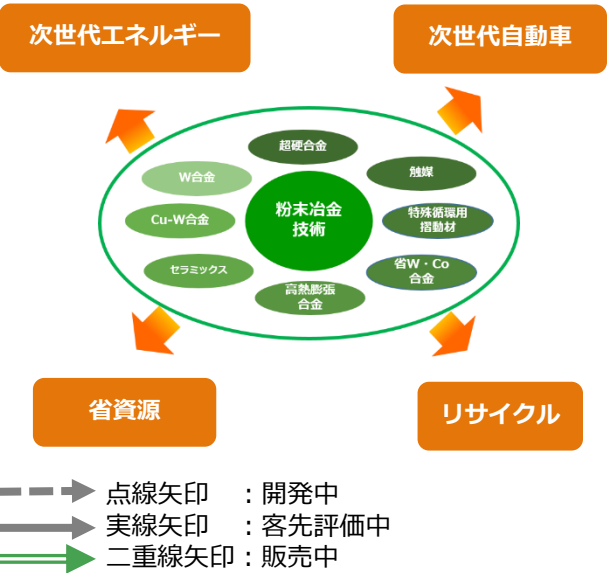
取り組み 知名度向上と潜在需要獲得を目的に
1月末に開催される展示会に出展予定
2027年3月期までの休眠再開を目指す

2027年3月期
目標海外売上比率：25%以上

当社のコア技術である粉末冶金技術と高圧発生技術を掛け合わせ、
新製品(触媒を含有した電極【PME】)を開発

分野	概要	進捗状況	販売時期(計画)		
			25年3月期	26年3月期	27年3月期
次世代エネルギー	① CO ₂ 還元用触媒 ② 水素発生用触媒・電極(PME) ③ 空気亜鉛二次電池用触媒・電極(PME)	①開発完了(評価先検討中) ②触媒・電極開発完了(評価先検討中) ③客先評価中	--->	--->	--->
次世代自動車	① 高熱膨張レンズ用金型(TR合金) ② 長時間放電加工に適した超硬素材(VG51)	①販売中 ②販売中	==>	==>	==>
省資源	① 省タングステン・コバルト合金 ② 積層造形技術確立(3D造形技術による超硬合金への適用)	①ラインナップ化客先評価中(特許取得済) ②製品サンプル試作(客先評価中)	--->	==>	==>
リサイクル	リサイクル事業の立ち上げ	新規事業開発室で事業化を検討中 ①スキームの検討 ②テスト稼働 ③本格稼働	--->	--->	==>

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入



次世代エネルギー

水素発生用触媒・電極(PME※)

※Powder Metallurgy Electrode (触媒を含有した電極)

市場投入フェーズ

開発開始

試作品作成中

従来比で電力20%削減、水を電気分解するグリーン水素発生装置向け電極

特徴1

超高圧の合成技術を活かして触媒を開発し、粉末冶金技術でニッケル中に触媒を混ぜ込み電極化

特徴2

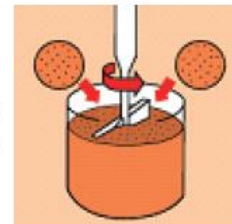
触媒はカルシウムと鉄と銅と酸素の酸化物、貴金属フリー環境負荷が低い

特徴3

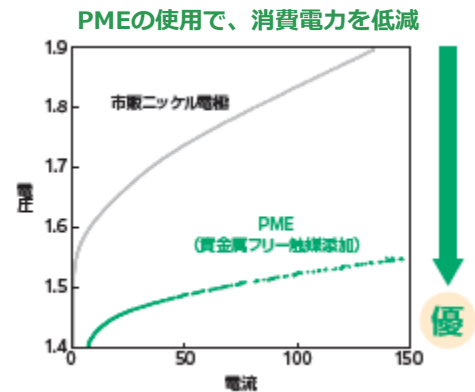
高表面積で高性能を実現、従来比で電力20%削減



超高圧合成技術
(触媒開発)



粉末冶金技術
(電極化)



2027年までに製品化を目指す

次世代自動車

モーターコア金型向け新材種【フジロイ VG51】

市場投入フェーズ

開発開始

本格販売

モーターコア金型向け超硬合金【フジロイVシリーズ】の新材種
長時間の水切りワイヤー放電加工用超硬合金

特徴 1

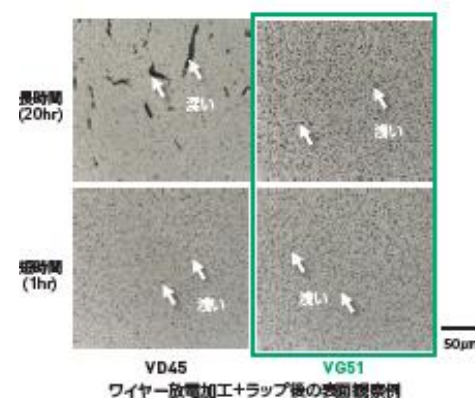
長時間の水切りワイヤー放電加工で生じる深い腐食を抑制

特徴 2

腐食対策で油切り加工する場合と比べて加工時間を短縮
金型作成コストを低減



最終製品例：モーターコア

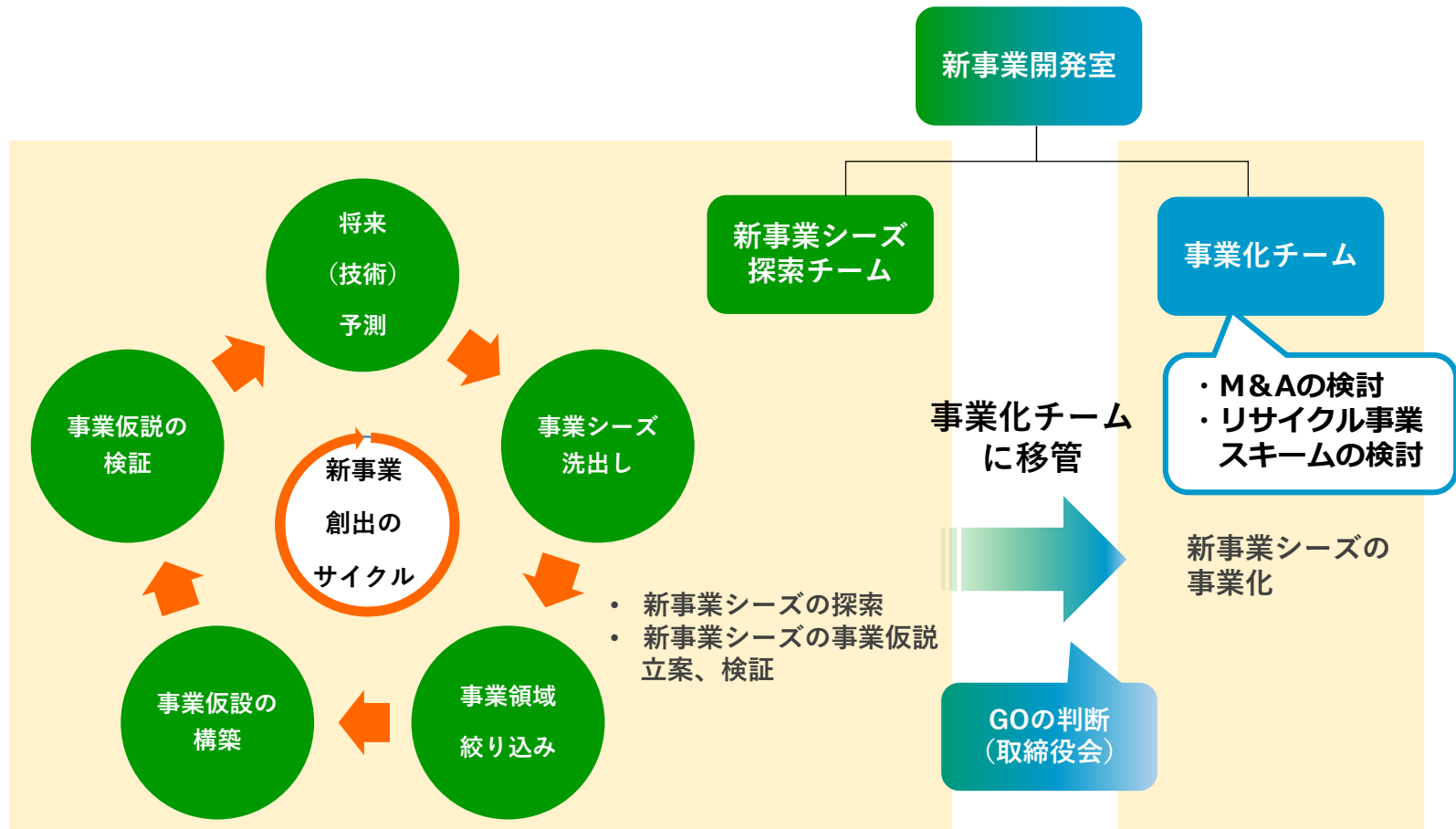


モーターコア金型向け材種のラインナップを拡充、新たな潜在顧客の獲得を目指す

中期経営計画2026：重要施策⑤ 新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

- ・ 新規事業組織を発足（2024年7月）
- ・ 新規事業の早期実現に向けたM&A、業務提携の実施を検討中
- ・ リサイクル事業の立ち上げに向けて、スキームを検討中



中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

ROE
7.0%

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
売上高	166.7億円	170億円	190億円	200億円
営業利益	8.0億円	6.8億円	15.0億円	20.0億円
経常利益	8.8億円	8.5億円	16.0億円	21.0億円
経常利益率	5.3%	5.0%	8.4%	10.5%
当期純利益	7.0億円	5.9億円	11.5億円	15.0億円
ROE	3.5%	2.8%	5.5%	7.0%

05

APPENDIX

富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

- ◆ 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- ◆ 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

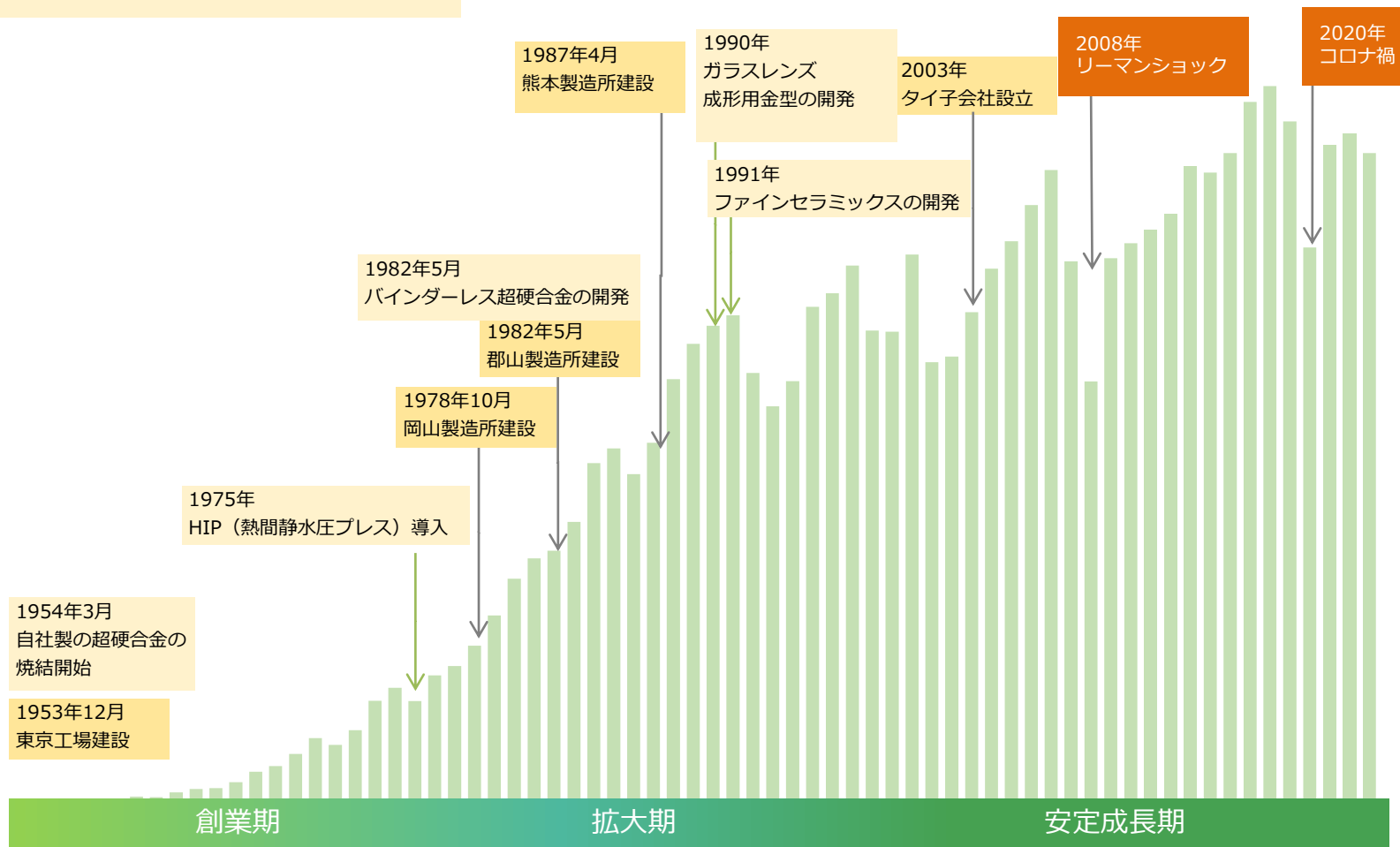
- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

主な沿革と売上高推移

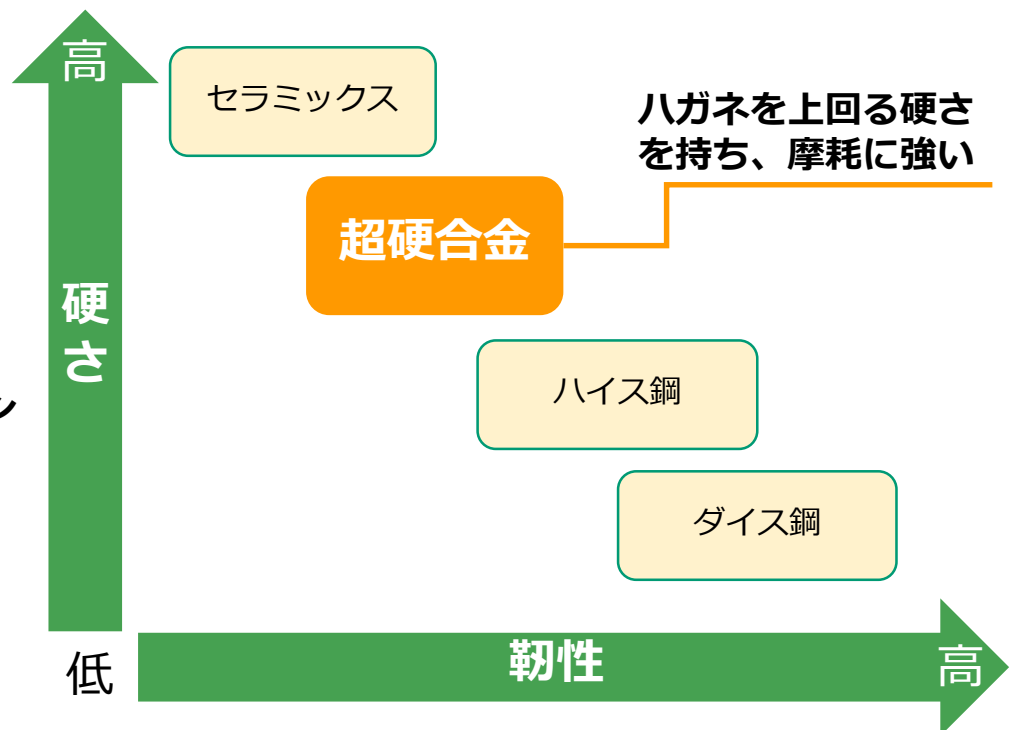
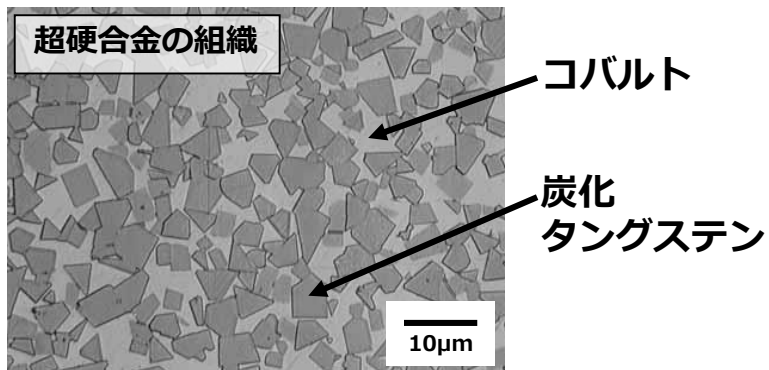
創業以来、黒字経営を継続



(注) 2012年度以降は連結売上高

超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

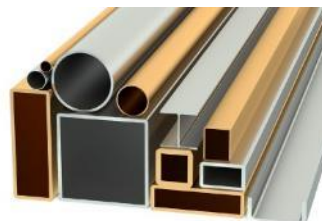
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など
インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



光学素子成形用金型

最終製品例



スマートフォンレンズ カメラレンズ



監視カメラ

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



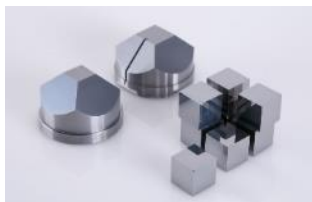
鍛造金型

最終製品例



自動車・各種機械用部品

当社製品



高圧工具

最終製品例



人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 高度な粉末冶金技術と加工技術
- 様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



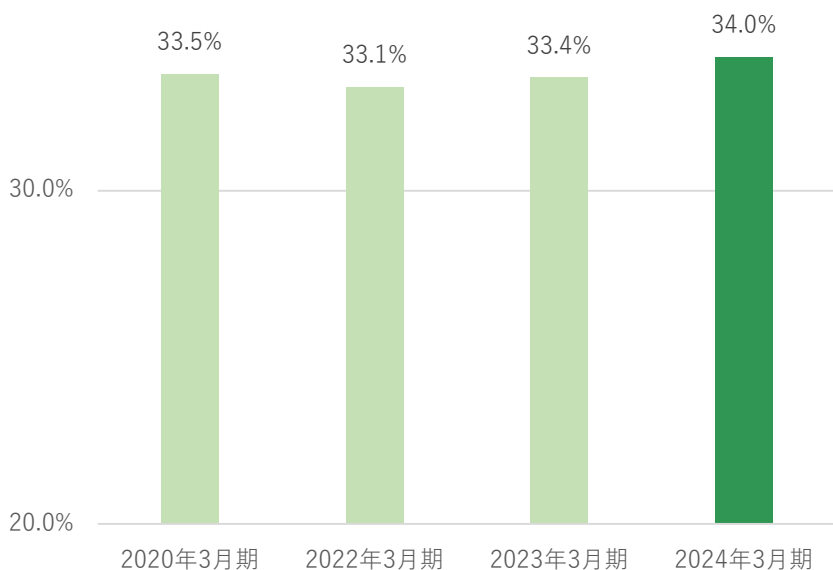
FUJILLOY

© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

耐摩耗工具専門国内トップメーカー

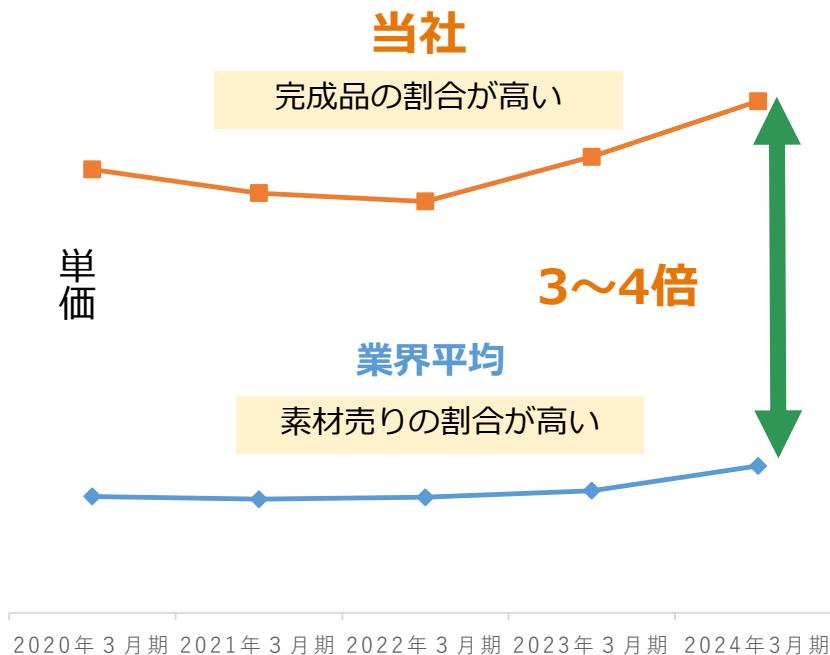
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り、トップシェア（30%超）**を堅持
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



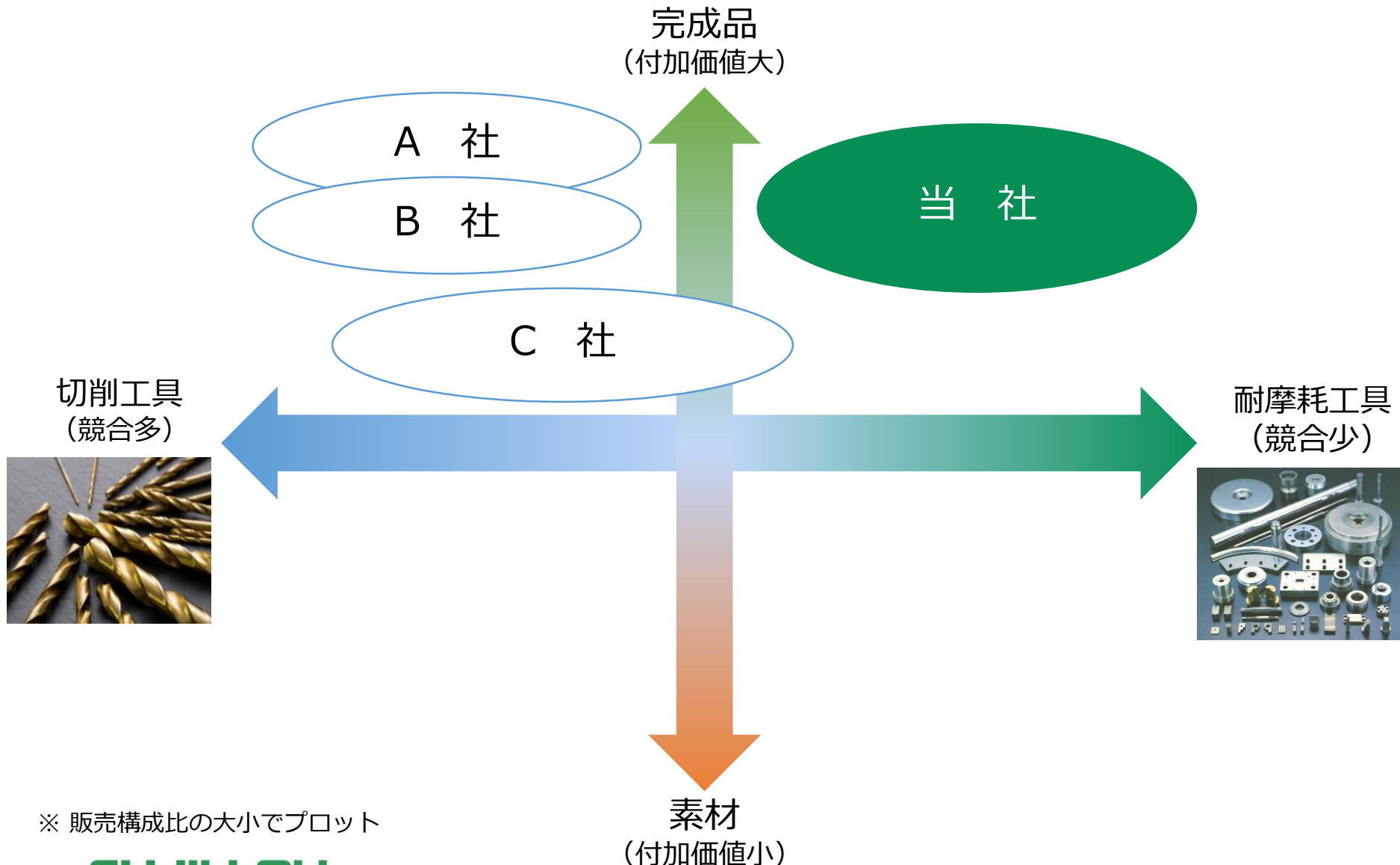
※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

製品の平均単価の推移



出所：日本機械工具工業会

工具業界 ポジショニングマップ (上場企業)



※ 販売構成比の大小でプロット

FUJILLOY

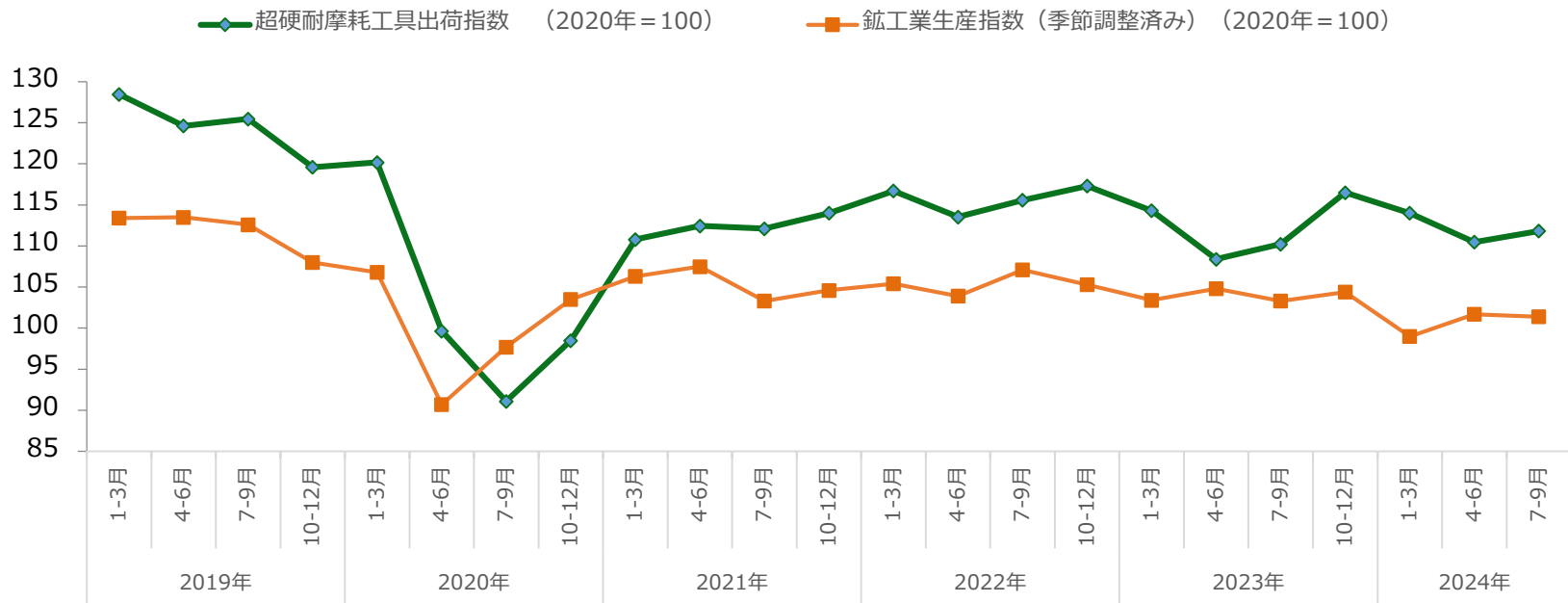
© Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

2025年3月期第2四半期までの事業環境

鈹工業生産指数と超硬耐摩耗工具出荷

2020年度と比較すると回復基調にあるが、まだ両指数ともにコロナ禍前の水準には戻っていない

鈹工業生産と超硬耐摩耗工具出荷 指数推移

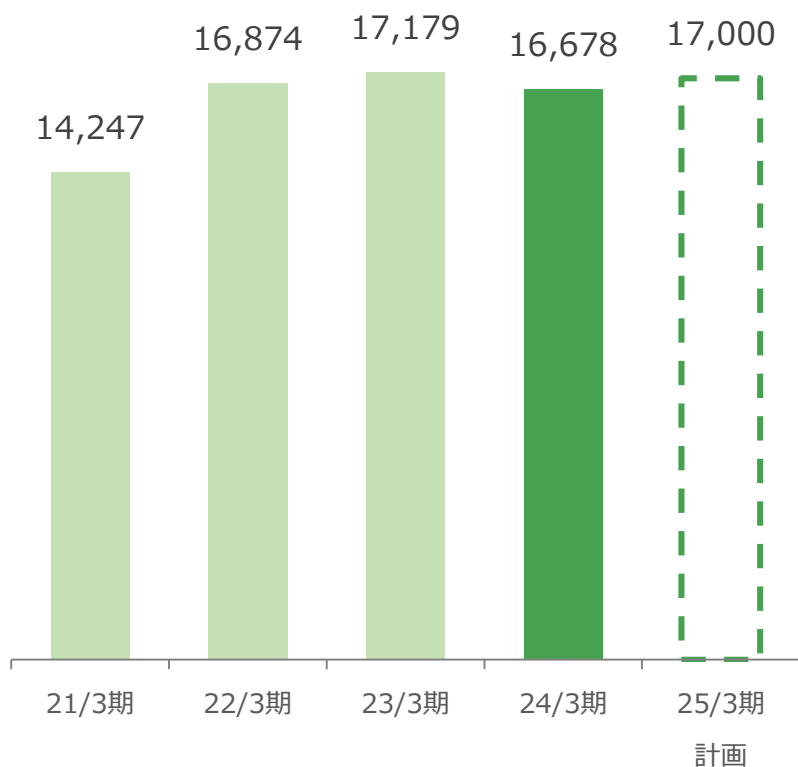


出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鈹工業指数』

業績の推移 1/3

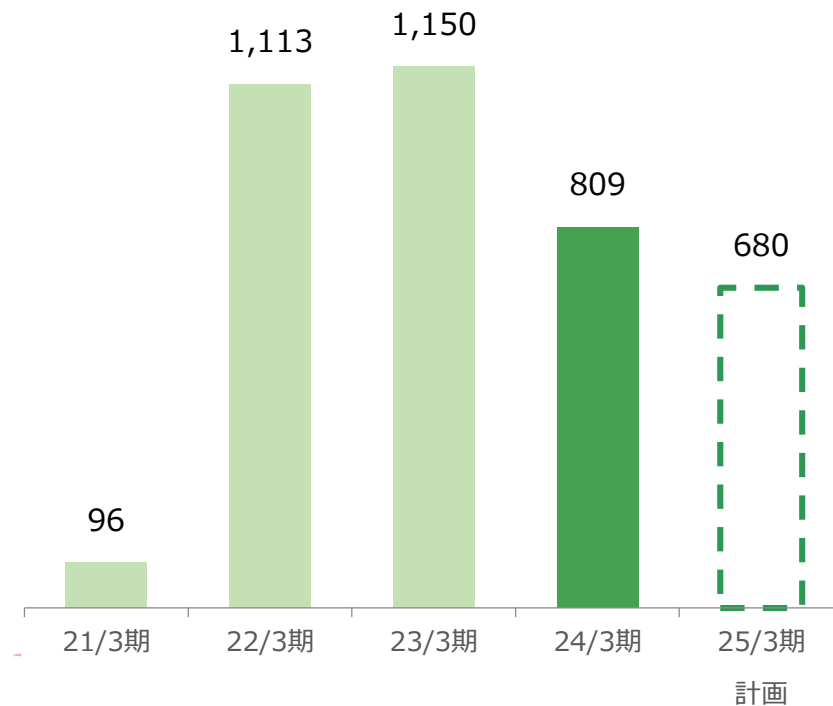
売上高

(百万円)



営業利益

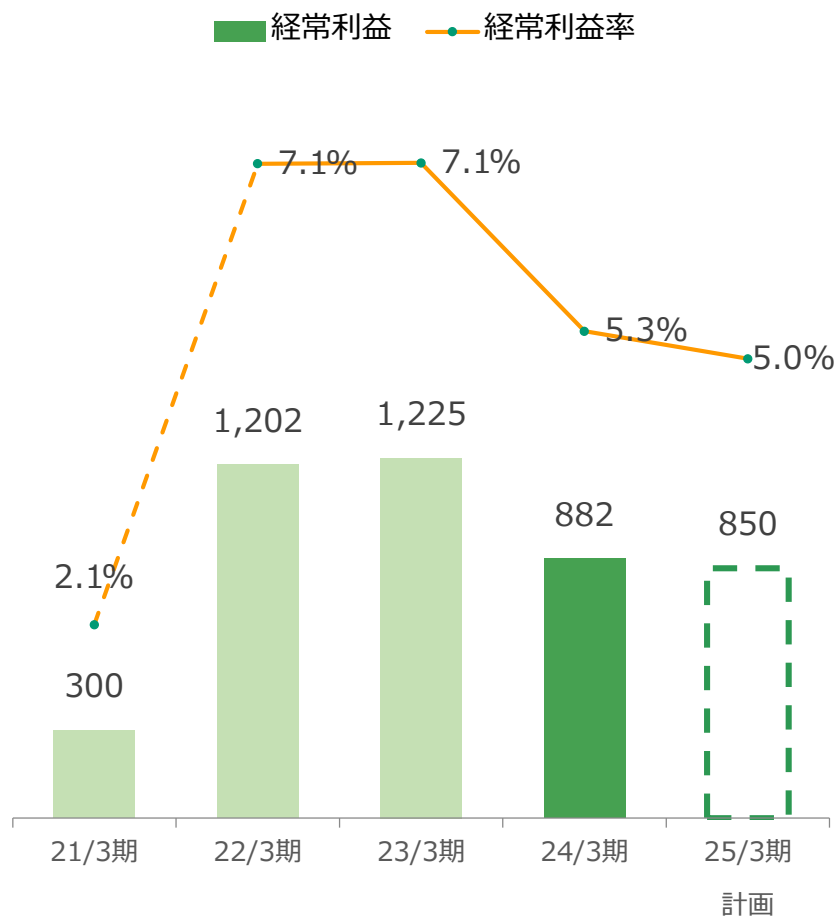
(百万円)



業績の推移 2/3

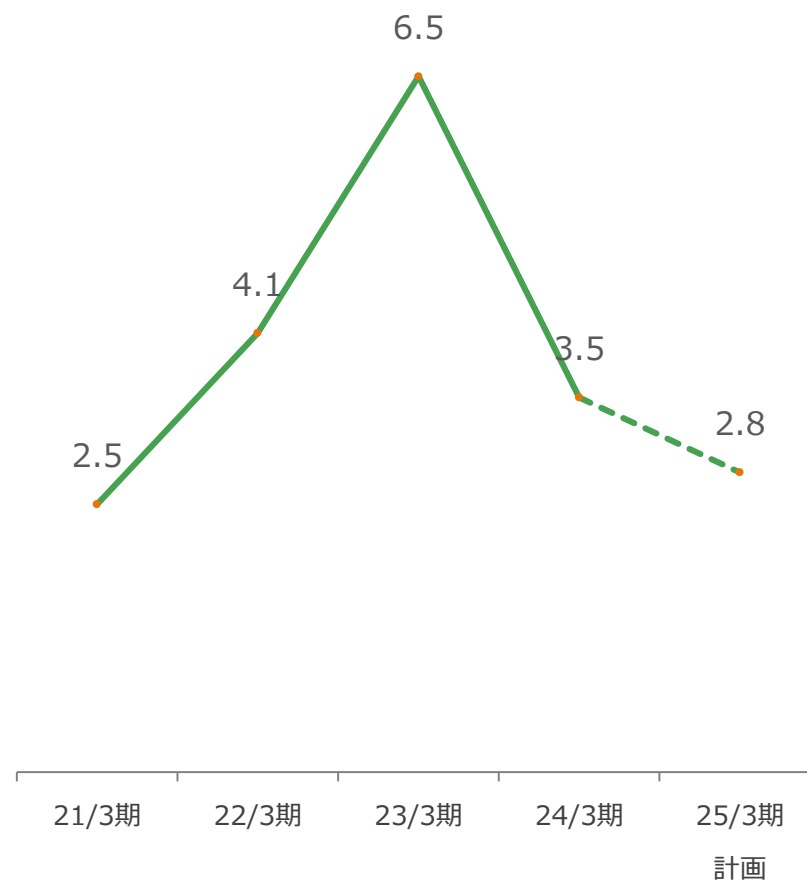
経常利益

(百万円)



ROE

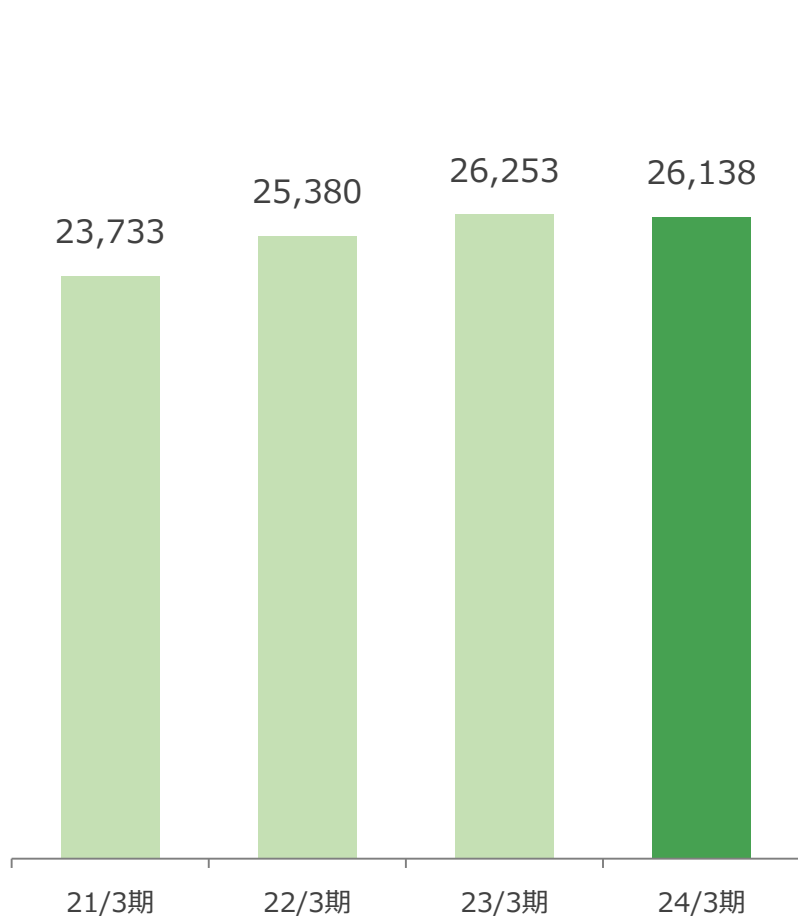
(%)



業績の推移 3/3

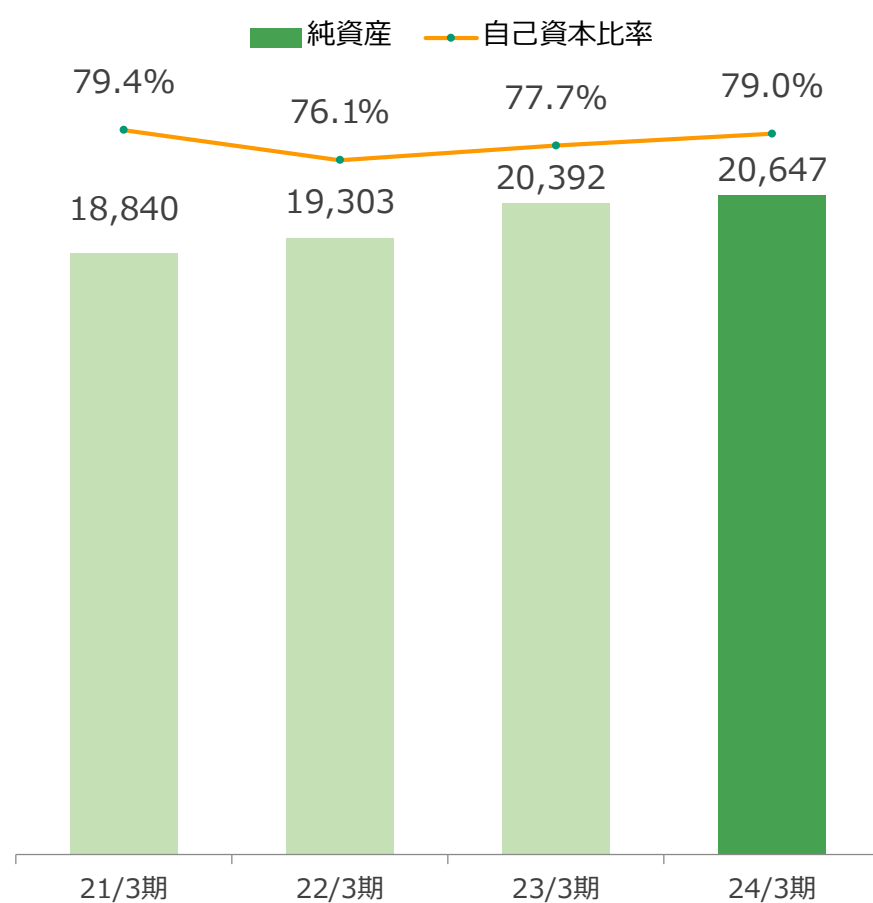
総資産

(百万円)

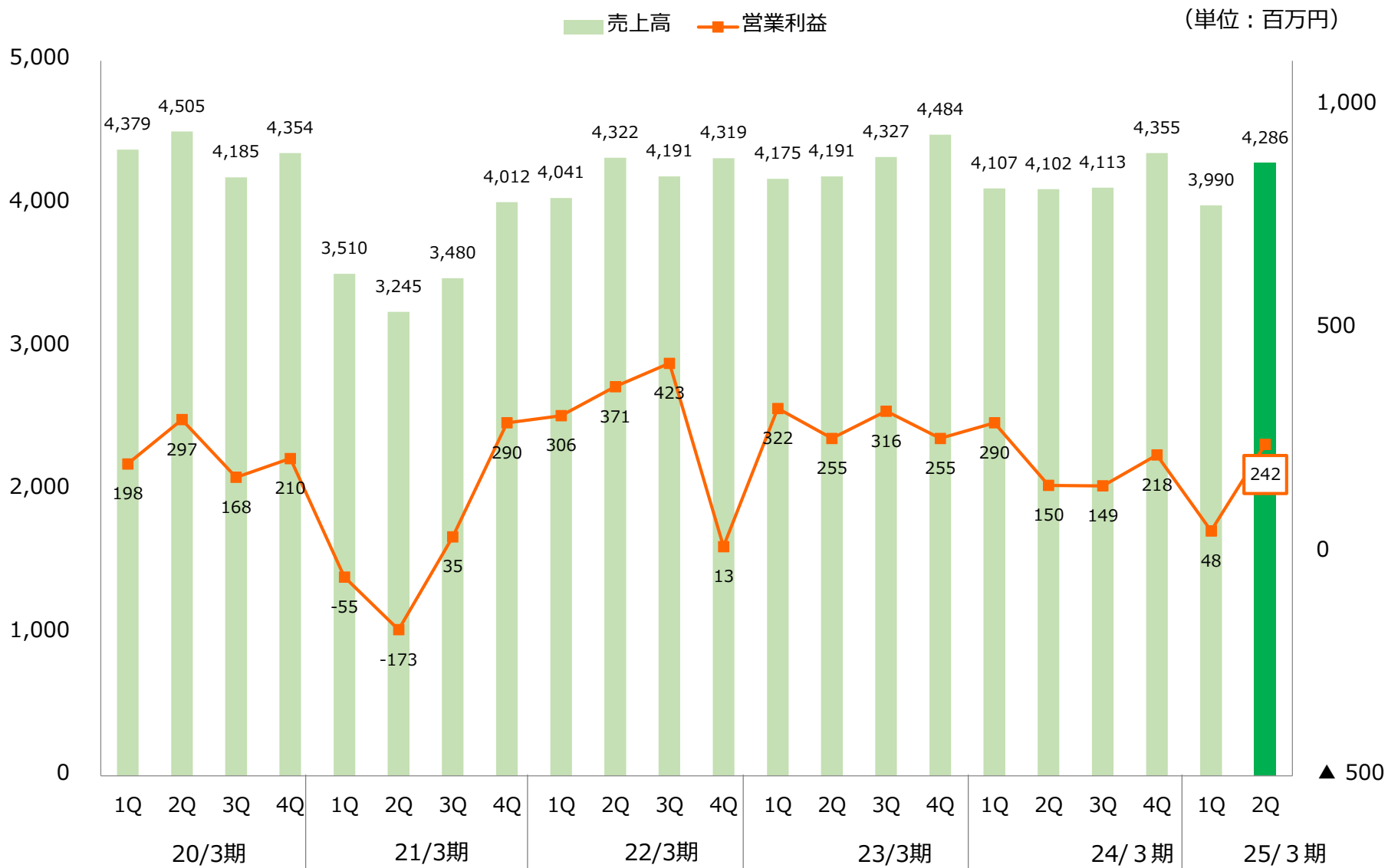


純資産

(百万円)



連結四半期業績推移



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記載されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。